

いたずら者ののうさぎの話

エチオピア・スーダン国境の近くに住むアニエック族の民話

【子ども向けに書きかえてみました】



ある日、のうさぎは河へ魚をとりに行きました。彼はドッサリ魚を家へ持って帰って来ました。



Nord Cameroun Christian Seignobos 1982

おじさんがそれを見て、「どこでこんなにとって来たの？」と聞きました。のうさぎが「河でさ」というと、おじさんは「では明日、私も行って、お前たちにもどっさりってきてやろう。だがどうやって魚をとるのかね」と聞きました。

それでのうさぎは（いつものように、おじさんをからかうことを考えて）、「そうだな、まずどうもろこしの粉をひとつかみ持って行きな。水の上でいるところがあるから、そこへ行って水に粉をまきな。」

そうしたら魚が集って来るから、水にせなかをかけて、手をひろげて後ろ向きに飛び込みな。すると水面近くに集って来た魚が陸へはねあげられるから、いくらでもとれるよ」と教えました。

（実は、のうさぎは、水の上にはせなかにトゲのいっばいはえた魚がいて、どうもろこしの粉をまいたら、その魚が水面に浮かんで来てそれを食べようとするという、子どもでも知っている魚のくせを計算に入れてそう言っているのです）

おじさんはいわれたとおり河へ行って、たくさん魚がとれることを期待しながら、少しでも多くの魚を陸へはねあげてやろうと、後ろを向いてできるだけおおげさに飛びこみました。

次のしゅんかん「あチチチ」と彼は悲鳴をあげ、おおあわてで陸にはい上ってきました。彼のせなかはトゲつきの魚でいっぱい、ふくれあがっていました。

はい上ったところにちょうどヌアル族の男がおりがかったので、彼にたのんでトゲの生えた魚を引きぬいてもらい、やっとのことで家に帰って来ました。（文責 三谷雅純）



Les Danseurs Masques de l'Ouest africain

山口昌男『アフリカの神話的世界』（岩波新書F66）を改変